

LMcorsa

60

● H.YOSHIMOTO

● S.KOHNO

SUPER GT 2020 Race Report Rd.1 FUJI GT 300km RACE

7月18-19日 | 天候：雨/晴 | コース：富士スピードウェイ | 路面：ウェット→ドライ

Race Days Summary

待望のSUPER GT2020年シーズンは、予選Q2に進出し、

デビュー戦の河野選手が14位を獲得

決勝レースはスターティンググリッドから1ポジションアップの13位で完走する。

Race Days

「2020 AUTOBACS SUPER GT」の開幕前のスケジュールだと、7月中旬にはシリーズの8戦中4戦が終わっていて、後半戦に突入することとなっていた。だが、新型コロナウイルスの感染拡大によって3月末の公式テストからすべてのプログラムが中止となってしまった。それでも、6月に入るとSUPER GTを運営するGTアソシエーションが、2020年シーズンの開催へ向けたロードマップを発表。同時にシリーズの日程変更がアナウンスされ、シリーズ戦は当初の8戦を確保しつつ、開催されるサーキットが「富士スピードウェイ」「鈴鹿サーキット」「ツインリンクもてぎ」の3箇所に絞られた。開幕戦は7月18日-19日に富士スピードウェイで実施され、11月28日-29日に同じく富士スピードウェイで行なわれる最終戦までに、富士スピードウェイで4戦、鈴鹿サーキットとツインリンクもてぎで各2戦の計8戦が予定された。また、新型コロナウイルスの感染リスクを低減するために、第1戦から第4戦までは無観客で行なわれ、第5戦以降は状況に応じて観客を導入することもあるが、シーズン通して無観客で開催されることも想定している。



このように未曾有のシーズンとなった2020年のSUPER GTシリーズ。そんなシーズン開始が見えない状況でもLMcorsaは着実に準備を進め、開幕戦の富士スピードウェイへ向かうことになった。今シーズンは飯田章監督、第1ドライバーの吉本大樹選手という布陣に変更はないが、第2ドライバーに若手の全日本F3選手権などで活躍した河野駿佑選手を起用。

Race Days

そして、装着タイヤがミシュランへ移行した。

当初の予定から約3カ月遅れでのスタートとなった開幕戦は通常ならば予選と決勝が別日で実施されるが、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するために、7月18日（土）に公式練習、19日（日）に予選と決勝を行なうコンパクトなスケジュールとなった。



18日の公式練習は16時から17時50分までの1時間50分が予定されていたが、スタート時に富士スピードウェイは濃い霧に覆われ、開始時間が遅れることとなる。ようやく霧が薄くなったのが17時前で、公式練習は17時15分から1時間半での実施となった。翌日の予選も不安定な天候が予想されキャンセルされる可能性があったため、LM corsaは想定していたプログラムを変更し、好タイムを残すことを目的の一つとした。

SYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだ吉本選手は、タイヤやマシンの確認をするとセットアップを煮詰めて行く。13周を走行したところで河野選手にバトンタッチし、8周を走行すると再び吉本選手がステアリングを握る。このタイミングでベストタイムとなる1分37秒705をマークし、GT300クラスの29台中15番手のリザルトを残した。

<予選>

公式練習から一夜空けた19日（日）は、降雨の予報があったが富士スピードウェイは曇り空に覆われ路面は一部が濡れていたが、予定通りの9時30分から予選がスタートした。GT300クラスの予選Q1は29台が2組に別れて競うことになり、LMcorsaは1組目に振り分けられる。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだのは吉本選手で、路面は所々で濡れていたがスリックタイヤを装着してコースイン。3周に亘ってウォームアップを実施し4周目からアタックを開始する。まずは1分39秒台をマークし、翌周には1分38秒574を記録。路面コンディションが回復していくなかで、さらにアタックを続けて6周目に1分38秒479までタイムアップする。ライバル勢もタイムを伸ばすが、8番手で予選Q1を突破した。



Race Days

GT300の2組目、GT500の予選Q1を挟んで開始した予選Q2。初の予選アタックとなった河野選手だが、冷静に役割を果たすことになる。コースオープンとともに走行を開始した河野選手は、吉本選手と同様に3周に亘るウォームアップ後にアタックを開始。ミスなく1周をまとめると1分37秒992をマーク、翌周もアタックを行なったがタイム更新にはいたらなかった。結果は14位で、2020年シーズンの開幕戦は14番グリッドからのスタートとなった。

<決勝>

予選と決勝を1日で実施するワンデー開催のため、予選終了からわずか3時間後には決勝レース前のウォームアップ走行が行なわれ、20分間のチェック走行が終わるとスタート進行が始まった。66週の決勝レースは予定通りの15時にスタートし、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3には吉本選手が乗り込んだ。決勝レースは開始早々にGT500クラスのクラッシュによってセーフティカーが導入される。5周目にリスタートすると14番手から上位を目指したSYNTIUM LMcorsa RC F GT3だったが、徐々に順位を落としてしまう。10周目には17番手、15周目には20番手となり、ラップタイムはウォームアップ走行より2秒ほど遅れてしまう。チームは吉本選手のスティントをレース中盤以降まで引っ張る予定だったために、ラップタイムが伸び悩むなかでもピットに呼び戻すことができない。レースの1/3が終了する20周を超えると徐々にピットに戻るマシンが増えていく。上位陣がピットストップを行なうなかでSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は周回を続け、順位は25周目に12番手、30周目に9番手、35周目に4番手まで浮上しピットストップのタイミングを見計らう。だが、35周目にGT300クラスのマシンがコース上に止まってしまい、再びセーフティカーが入る。このセーフティカー導入によって、すでにピットストップを終了していたマシンが後方に追いついてしまい、まだピットストップを実施していないマシンが不利な状況へと追い込まれた。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は40周目にピットインし、吉本選手から河野選手へドライバーチェンジ。加えて4本のタイヤ交換と給油を行なってコースへ復帰する。41周目のコントロールラインを通過するとSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は13番手まで順位を落とし、加えてトップ10を走るマシンと約1分のギャップができていた。デビュー戦となった河野選手は冷静にGT500クラスのマシンとの混走を果たし、順位をキープしたまま61周目に13位でフィニッシュした。



Race Days

14番手からトップ10圏内を目指したLMcorsaだったが、2020年の開幕戦は13位でチェッカーを受けポイント獲得とはならなかった。第2戦まで2週間のインターバルしかないが、開幕戦での課題を克服し2020年シーズンを戦っていく。

Team Comment



Director : 飯田 章

まずは、シーズン開幕に向けてご尽力頂いた大会関係者の皆さま、そして参戦にあたって日々努力を続けてくれたチーム関係者に感謝申し上げます。開幕戦の結果は喜べる順位ではありませんでしたが、ミスなくチェッカーを受けられたことは良かったです。昨日の公式練習は難コンディションで、予選ができなければ公式練習のタイムが採用されるということで、想定していたメニューを変えました。そのため予選ではタイヤの選択肢が少なくなったのですが、予選Q2に進出して最善はつくせたと思います。決勝レースは想定以上に気温が上がったためデータがなく苦戦しました。持っているパフォーマンスを最大限に発揮できるように、次戦までにチーム力で課題に取り組みたいと思います。



Driver : 吉本 大樹

昨日の公式練習は霧によって遅れたことと予選がキャンセルになることも想定して、準備していたメニューを変えました。マシンやタイヤの状況は悪くありませんでしたが、上位陣との差はありました。今日の予選Q1は一部の路面が濡れていて、得意なコンディションだと感じていました。Q2に進出できたのは良かったです。それでもギリギリだったのでパフォーマンスが引き出せていない状況です。決勝レースは前半のスティントを担当したのですが、グリップ感がなく後続を押さえることができずでした。路面温度と条件が合っていなかったのだと思いますが、次戦に向けて原因を究明しないといけません。苦しい戦いが続きますが、チーム一丸となって戦いたいと思います。



Driver : 河野 駿佑

予選は吉本選手がQ1を突破してもらいQ2を担当しました。マシンに乗り込む前は緊張もありましたが、コースインしたら冷静に走れたと思います。Q1とは条件が異なっていたのですが、大きなミスなくアタックできたので良かったです。決勝レースは吉本選手のペースが上がらず苦しい中で、戦略の幅もなかったのが難しかったです。担当したスティントは完璧ではないですが、しっかりとゴールまでマシンを運べたと思っています。チームもドライバーもミスなく走れましたが、結果がついてきませんでした。自分としては、ドライビングを含めて引き出しを増やしてチームに少しでも貢献できればと考えています。

